

知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画における サケ科魚類遡上数等調査について

1 河川工作物アドバイザー会議結果概要

- (1) 科学委員会は「知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画（以下、科学委員会 長期モニタリング）」を策定し、サケ科魚類遡上状況調査を河川工作物アドバイザー会議（以下、河川AP）で評価することとした。
- (2) 平成23年度第3回河川APにおいて話し合われた内容は以下のとおり。
- ・ 科学委員会 長期モニタリング計画により、サケ科魚類遡上状況調査の調査・評価は河川 AP において行う。
 - ・ 対象魚種は、カラフトマスのみ。
 - ・ モニタリング河川は、斜里側：ルシャ川（テップンベツ川）
羅臼側：ルサ川 ※テップンベツ川はルシャ川のコントロール河川として調査
 - ・ 調査手法は遡上数（できる限り台形近似法）及び産卵床数を予算の範囲内で実施。

2 海域WGにおけるこれまでの長期モニタリング

「多利用型統合的・海域管理計画」に基づくサケ科魚類の適切な資源管理と持続的な利用のため、指標種の長期モニタリングを北海道がH19から隔年で調査してきた。

- ・ 対象魚種はシロザケ、カラフトマス
- ・ モニタリング河川は、斜里側：ホロベツ川
羅臼川：ルサ川
- ・ 調査手法は産卵床数及び親魚数（生息状況）を各調査地点でカウント

3 海域WGにおける今後の長期モニタリング

これまで海域WGとして実施してきた長期モニタリングは、H24から河川AP所管で実施される科学委員会 長期モニタリング結果を活用。（科学的なデータを共有）

対象河川はルシャ川、及び、ルサ川とする。（斜里側の対象河川を変更）

道が行うモニタリングはルサ川とするが、調査手法はできる限り科学的な手法（台形近似法）で行うよう予算なども踏まえ実施内容を調整。

（H24に森林管理局が行うルサ川で行う台形近似法の試行調査結果を踏まえ検討。）

